



1月7日
(金)

長寿者褒賞

—100歳おめでとうございます—

度會^{わたらい}静さんが入所されている「郡上偕楽園」に日置市長がお祝いに訪れ、お祝い状などを手渡しました。度會さんは「ありがとうございます。」と喜ばれました。字を書くこと、人と話すこと、歌うことが大好きで、職員と一緒に歌ったりすることが楽しみだそうです。いつまでもお元気で。



◀度會さん
(白鳥町為喜)
大正11年1月10日生

12月24日
(金)

全国大会出場者激励会

—全国大会出場おめでとうございます!—

令和4年1月15日から16日にかけて、東京都調布市の武蔵野の森スポーツプラザで開催される、第13回全国高等学校ダンスドリル冬季大会に出場する中京高等学校1年の大坪^{おおつば}映緩選手(大和中学校出身)の激励会が開催されました。映緩選手は、「初めての全国大会でも練習の成果を発揮します。」と力強く誓いを述べました。



◀健闘を誓った大坪さん(中央)

1月30日
(日)

ひるがの高原スノーウォーク

—白銀の世界を冒険—

高鷲町ひるがので「ひるがの高原スノーウォーク」が開催されました。この日は天候と雪の状態に恵まれ、絶好のウォーキング日和でした。参加者たちはスノーシューを使って、雪の世界を楽しみながら歩き回りました。



◀雪上を歩き、雪の感触を楽しむ参加者たち

1月7日
(金)

長滝の延年華の献納

—コロナ早期収束を願って—

六日祭関係者のみなさんが、日置市長を訪ね長滝の延年華を献納しました。延年華は新型コロナウイルス感染症の早期収束と社会経済の復興、市政の発展を願って地元のみなさんが製作した縁起物です。

関係者のみなさんからは、来年こそは「長滝の延年」[花奪い]を実施したいと願う言葉が聞かれました。



◀延年華の献納に訪れたみなさん

1月18日(火)

人権擁護委員の就退任式／法務大臣表彰の受彰報告

—感謝状贈呈と委嘱状伝達及び受彰報告—

人権擁護委員を退任(令和4年1月1日付)された三島^{みしま}一朗さん(白鳥町二日町)、佐藤^{さとう}百合子^{ゆりこ}さん(白鳥町向小駄良)に法務大臣から人権啓発活動などに尽力されたことへの感謝状が、また、新たに就任される谷口^{たにぐち}英弘^{ひろ}さん(白鳥町大島)、丸井^{まるい}祐子^{ゆうこ}さん(白鳥町長滝)には委嘱状が、それぞれ十田^{せんだ}孝博^{たかひろ}岐阜地方法務局八幡支局長から伝達されました。

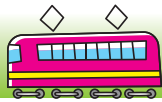
また、郡上人権擁護委員協議会会長の出井^{でいたて}建雄^{たけお}さん(白鳥町六ノ里)は、永年(4期12年)の人権擁護委員としての功績が評価され法務大臣表彰を受彰(令和3年10月25日付)されました。この日、そのお慶びを日置市長に報告されました。



◀岐阜地方法務局八幡支局長側(左)から丸井さん、谷口さん、佐藤さん、三島さん



◀法務大臣表彰を受彰した出井さん



郡上の山をもっと知ろう

—郡上市の「木育」の取り組み—

子どもの頃から木を身近に使っていくことを通じて、人と山や森、木との関わりを考える心を育てていく取組みを「木育」と呼びます。

郡上市では、清流の国ぎふ森林・環境税と森林環境譲与税を活用し、学校等と連携して森林学習等を行い、将来の山・地域・林業を支える人材を育成するために、木育を行っています。

赤ちゃんに木製玩具プレゼント

昨年から、郡上市で生まれたお子さんに、市内で製造された木製玩具を贈呈しています。8種類の木製玩具が掲載されたギフトカタログを9～10ヵ月児健診時に配布しますので1つを選んで専用はがきで送ると、製造業者から直接申込者に木製玩具が送られてきます。木製玩具を製造している事業者が複数あるのは、郡上市の特徴でもあります。このおもちゃを通して幼少期から木に親しみ、保護者のみなさんにも木の良さを感じていただけることと思います。



木製ジャングルジム製作体験

市内の幼稚園・保育園5園と小学校5校で、子どもたちが柱とヌキに釘を使わず、木槌を使ってくさびを打ち込み、道具も材料もすべて郡上産のスギで出来た木製ジャングルジムを完成させました。立派な遊具を自分たちで作り上げた達成感と、木に触れる機会が減少した現代で、木本来の特性を感じることができました。完成した木製ジャングルジムは、長期レンタルで、体験に参加できなかった子どもも木に触れて遊ぶことができました。



学童用机保護天板の製作

市内の小学校3校で、児童が県内産の間伐材から作られた学童用机保護天板（YUME I TA:夢板）に将来の夢や今年目標を書き入れ、手形を押して完成させました。授業の中では、郡上の森林について学ぶとともに、夢板となる木が、①木を伐る人②製材する人③組み立てる人④塗装する人を経て作られていることを学び、私たちと山や木とのつながり考える機会となりました。夢板は、毎年の成長を記録し、卒業時にファイル型に加工し児童に贈られます。



マイ下駄づくり

市内の小中学校9校で、夏のおどりシーズンに向けて、郡上市産材のヒノキを使った鼻緒の取り付けなどの作業が行われ、世界で一つだけのマイ下駄を製作しました。作業の前に、郡上の山の価値やその役割を学び、同時に地域文化の重要性についても学びました。子どもたちは、のこぎり作業に苦戦しながらも、自分のマイ下駄が完成すると同級生と見せ合い、談笑する姿も見られました。

